



子供達への自然体験学習指導のお願い

兵庫県立南但馬自然学校学長・北摂里山大学学長 服部 保

兵庫県の体験教育が兵庫型体験教育と呼ばれているように、県内の体験教育はたいへん進んでいます。小学校3年生の環境体験事業、小学校5年生の自然学校推進事業、中学校2年生のトライやるウィークと続きます。それらの体験教育は子供達の感受性、社会性、自立性、人間性を育む上で、大きな効果を上げています。体験教育には自然体験、社会体験、環境体験、交流体験、原体験など様々な分野を含んでいますが、それらの体験の中で、ヒトが生物であることを自覚する上でも私は自然体験が重要と考えています。自然体験の内容としては、野、山、川、海において自然・生態系に触れる体験および農地、林地などにおいて作物や木材に触れる体験があげられます。自然体験教育を進めるにあたって、何が課題になるのでしょうか。教育の場の利便性、自然の内容、安全性、トイレなどの施設といった多くの課題がありますが、もっとも大きな問題は子供達の自然体験を体系的に教育できる講師の人材とその人数にあると思われまます。自然が豊かで施設が整っていても、有能な講師が不足すれば体験教育はできません。

私は現在、小学校5年生の自然学校を実施するための施設である県立南但馬自然学校の学長をしています。今年は新型コロナのために来校する小学校は少ないのですが、例年ですと、本校は週ごとに200人ほどの子供達の様々な体験を体系的に学習する自然学校となります。各小学校は体験学習を指導する講師、指導補助員と一緒に来校し、先生方はそれらの講師の方々と共に様々な体験学習のメニューを実施してゆきます。これらの体験学習を自然体験重視の視点で見ると、どうも自然体験を指導できる講師が少ないようです。また、小学校3年生の環境体験事業においても多くの小学校では指導できる講師が少ないことに悩んでおられるようです。

さて、森林保全活動をされている森林ボランティア団体の皆さんは長期にわたる活動を通じて様々な自然体験を積んでこられました。樹木の伐採、育苗、植生管理といった森林保全に直接係わる分野だけではなく、様々な植物や動物の生態、地形・地質、水、大気などについてもたくさんのことを学習されていま

す。これらの知識を皆さん一人、一人の教養として、また楽しみとしてのみ保持するのはたいへん惜しいのではないのでしょうか。これらの知識を社会に還元、もっと具体的に言えば小学校3年生、5年生などの自然体験教育に生かしていただけないのでしょうか。皆様の知識と組織力があれば、たくさんの子供達の自然体験教育が可能となります。小学校3年生の体験学習については、川西市の「溪のサクラを守る会」、姫路市の「的形ふるさと里山会」のようにすでに実施され、



「溪のサクラを守る会」・五感で溪に学ぼう

多くの成果をあげておられる団体もありますが、たくさんの小学校ではまだまだこれからです。小学校5年生の自然学校ではまだ協力いただいている団体はないように思います。新型コロナのために十分な体験学習を行うことが困難であった本年ですが、森林ボランティア団体の協力のもとに3、4、5年生の体験学習を実施された例を一つ紹介いたします。川西市多田東小学校では本年10月に3年生の環境体験事業、4年生の里山体験事業（川西市では県内で唯一4年生の体験学習を実施）、5年生の自然学校を小学校近くの「東多田里山の会」の活動地で、多数の会員の方々を講師として実施されました。学年毎に違うメニューでたくさんの子供達を指導するのはたいへんだったと思います。会が設立されて2年目というのも驚きです。小学校の先生方と会員の協力のもとに体験学習が地元で行われたのはたいへん素晴らしいと思います。森林ボランティア団体の小学校への自然体験教育の支援をいただくためには、ある程度制度の整備が必要であり、多田東小学校のように今すぐにはいきませんが、皆様の協力なしには小学校の自然体験教育の発展はないと断言できます。皆様の子供達への自然体験学習の指導をよろしく願いいたします。（2020年12月寄稿）

森づくりに貢献のあった団体が次の賞を受賞されました

- 環境保全功労者知事表彰：けびの森くらぶ
- 全国育樹活動コンクール 国土緑化推進機構理事長賞：NPO 法人あいな里山茅葺同人
- ひょうご森づくり活動賞：小谷城跡保存会（7頁の新会員紹介に掲載）

けびの森くらぶ（香美町）

私達の活動する香美町村岡区粗岡（けびおか）は、兵庫県北部、大峰山中腹、標高 500 位の南斜面に開けた集落で、かつては森林の恩恵を得て、棚田米の生産、山菜の集荷、炭焼きで炭を出荷、豊富な清水を利用した粗（けび）わさびの出荷、一番の収入源である但馬牛の繁殖、冬季間の酒杜氏として出稼ぎに行く、山村ならではの暮らしがいきづいていました。しかし、生活様式も変わり、自然への畏敬の念が薄れてきていると感じている頃、この粗岡をふれあいの場として都市と農村の交流の場になればと自然大好き仲間が集まり、「けびの森くらぶ」が平成 9 年に発足しました。

当初は森で遊び楽しむ活動が中心でしたが、その中で先人が資源として植樹してきた森の手入れをし、作業で出る材を利用する場として炭窯を製作して秋には白炭の炭焼をするようになり、最近では森林組合に伐採木の出荷もしています。

また、近隣の小学校等の環境学習を受け入れ、自然観察会、植樹、森の手入れ、椎茸の植菌作業、炭焼き体験等をシリーズで活動することでふるさとを思う心を育て、大人も子どもも共に活動することで感動を伝えたいと思っています。

最後となりましたが、このたび環境保全功労者表彰を頂き、光栄に感じるとともに今後も未来ある子どもたちと森を守る活動に尽力していきたいと思っています。



子どもたちの炭焼き体験を指導

NPO 法人あいな里山茅葺同人（神戸市）

この度の賞をいただくことが出来たのは会員の協力、活動できる場所と機会を与えていただいたことによるものと感謝いたします。

本団体は甲南女子大学でのふれあいの森づくりをきっかけにして、2008 年に環境の保全を図る活動団体として NPO 法人を設立しました。

◇活動の目標 子ども達が群れて遊ぶ森づくりの具体化の推進。

長年にわたり手入れされていない放置里山林を整備することで、陽当たり・風通しが改善され、生物多様性の再生が促進され、子ども達が豊かで安全な森の中で遊ぶことが出来るようになりました。

具体的な活動としては、兵庫県版レッドリスト C ランクに指定されている、オケラとキンランの個体を見つけて生育域の維持・拡大を目指した環境づくりとモニタリング調査を行っています。また、近隣の小学校 3 年生が春・秋・冬の自然観察会で学び・遊ぶ空間を念頭に整備しており、女子大のゼミ生と共催の地域交流イベントでは森の恵みを味わい里山遊び体験を通して親子で自然を楽しむ企画も行っています。

このような身近な自然環境が子ども達の健全な心身の育成の促進に寄与することを願って森づくりをしています。

これからも利用者が身近な自然で遊びながら話し合える場となる森づくりに取り組んでいきたいと思ひます。



地域交流イベント：ツリーハウスにて

会員団体の活動紹介

一般社団法人 ブナを植える会（神戸市）

創立 40 周年を迎えた我が会は、40 年前、列島再開発で荒れた自然環境の中で、森林の大切さを訴え兵庫県、地元町村、住民の協力のもと設立されました。第 1 回のブナの植樹会を鉢伏高原で開催しました。植樹開始 10 年が経った頃、会員の申し出により夏季の育樹作業が始まり、ブナの活着率は格段に向上しました。又、地元の人たちとの交流も大事に思い交流を始めました。ブナは雑木に分類され、ブナを研究する学者は少なく、私たちは、鳥取大学名誉教授の橋詰先生に指導を受けました。20 年を過ぎた頃私たちの植えたブナはどうなっていますかと、会員の声が聞かれるようになり、測樹作業が始まりました。創立 25 周年に測樹集計表 I、30 年過ぎに第 2 集、40 周年で第 3 集を発行しました。既に、第 1 回植樹木は大木になり、数年前に 2 世が誕生しました。人の植えたブナは



緑の少年団の交流集会（鉢伏高原）



六甲山小学校・六甲ブナの育樹作業

40 年で花が咲くのが判りました。このように立派に成長したブナ林で緑の少年団の交流集会を開催。小代小学校では環境学習と紙芝居の上演、校庭の一隅にブナを植樹しています。六甲山小学校のブナブナブーナ・プロジェクト活動の支援。児童たちは、ブナの道の育樹作業を続けています。又、絶滅の危惧される六甲ブナの取り木の実験を行っております。

この貴重な事業を人生の後輩に託すために私たちは協同作業者と活動を展開しています。卒業後の進路により、いろいろな道に進まれますが、環境系の進路を選んでくれる事は嬉しい事です。

フォレスター松寿（神戸市）

パナソニック電工 OB 会「パナソニック電工松寿会阪神地区」が 2009 年 10 月に森林ボランティア活動の組織を立ち上げ活動を開始しました。任意団体「フォレスター松寿」は国交省近畿整備局六甲砂防事務所「森の世話人」として登録し、同年 12 月より神戸市東灘区森北地区の国有林の受託地で、活動面積約 2ha で活動をスタートしました。現在、地元東灘区内の各種ボランティア団体、活動地近隣の学校の生徒さんにも参加いただき、幅広いメンバーで活動しています。今日では、会員 44 名を中心に学生さんや一般参加者も増え、定期的に行っている植樹会&樹木教室やお花見会等のオープンイベント時には多数の参加者もあり、市民に開放された森林ボランティア活動となっています。他の「森の世話人」とも連携し、地域活性化を目指した「岡本（ほくら〜ととや）桜回廊づくりプロジェクト」に協賛し、地元地域社会との連携による活動を活発に進めています。



集合写真（ドローン空撮）



大学生の植樹作業の様子

2020 年 11 月 8 日に実施しました植樹会には、大学生 6 名を含めて総勢 32 名の多数の皆様に参加いただきました。今回の植樹会ではヤマアジサイやコアジサイを中心に 45 本の苗を植えて、累計では約 1,100 本以上の植樹をしたこととなります。午後からは参加者の皆様に、活動地全域を巡りながら植樹履歴や樹木の説明を実施しました。この機会に活動地全体を知っていただく良いキッカケになったと思っております。

獅子ヶ池を美しくする会（神戸市）

獅子ヶ池は、明治時代の古地図にも掲載されていた農業用ため池で、地域の子供達がキャンプ等を楽しむ場として利用されていました。ところが、阪神・淡路大震災以降、産業廃棄物等が不法投棄されるようになってしまいました。事態を憂慮した地域住民（丸山地区住民自治協議会）が主体となり、神戸市や地域の学校と協働でクリーン作戦を展開し、膨大なゴミを一掃したことが「獅子ヶ池を美しくする会」発足のきっかけです。

現在は、獅子ヶ池を含む里山環境を一体的に再生することに力を注いでおり、毎月1回の検討会と里山活動は、今年はコロナの影響で2回お休みしたものの、2006年の会発足より継続しており、今年で14年目を迎えます。地域の大人、若者、子どもと一緒に草刈り、間伐、芽欠きなどに汗を流しています。



雲雀丘中学生による森の回遊散策路づくり

雲雀丘中学校の生徒が、森の回遊散策路づくりや、外来種セイタカアワダチソウの駆除などに多大の貢献をしてくれ、頼もしい存在となっています。また、季節ごとに丸山ひばり小学生や区南部の小学生が獅子ヶ池をフィールドとする環境学習の取り組みをお手伝いしています。

一昨年より、かつて桜の名所だった丸山の地域景観を取り戻そうと、桜の植樹にも取り組んでおり、兵庫県県民まちなみ緑化事業や宝くじ桜寄贈事業の助成を受け、桜の苗木を150本植樹しました。今後も、獅子ヶ池が「都会のオアシス・自然の宝庫」となるように活動を続けていきます。



桜植樹の様子

大和フォレストクラブ（川西市）

【設立】

「大和の森」は面積約1ha。昭和40年代、大和団地（約4,000世帯）の開発時に残地として40年間放置されてきた団地周縁の雑木林の一部で、市有地です。この鬱蒼とした森を整備し、住民の憩いの場にするを目的に有志が集まり、2009年から調査を開始。2011年4月「大和フォレストクラブ」を設立し、作業を始めました。

【活動経過と今後】

当初は、トウネズミモチとアカメガシワ、それに絡まるツタやクズ・イバラに覆われ、一步も踏み込めない暗い森でした。作業はそれらの伐採・除去から始まり、散策道や階段の敷設が主な作業でしたが、最近は整備された森の状態を維持するための作業に移りつつあります。カブトムシや国蝶「オオムラサキ」の繁殖にも取り組み、2020年夏「オオムラサキ」を羽化させることができました。



「大和の森」の姿

整備を始めて9年、暗い森も見違えるように明るくなりました。「春・秋の散策会」や、毎月第3日曜日の「森のカフェ」等、定例化されたイベントを通じて住民の間でも少しずつ「大和の森」の存在が認知されてきたようです。最近は、音楽グループが森の広場で練習をするようになりました。

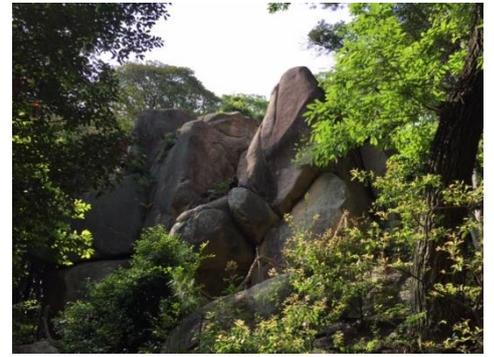


ススキの手入れ

「憩いの場」の提供を目的とした事業ですので、近隣住民に如何に利用してもらえるかが重要です。定例行事以外にも、子ども向け「自然探索会」や「自然工作教室」「藍のたたき染め」等の行事もあります。森の整備という力仕事だけでなく、イベントの企画や運営のできる人材も求めています。

こしきいわの森を育てる会（西宮市）

越木岩神社は、甕岩（こしきいわ）と呼ばれる巨石が鎮座し、古代より信仰の場として大切にされてきた場所です。社叢には、ヒメユズリハやヤブツバキなどが群生し、学術的にも貴重とされています。しかし、環境変化により、森が荒廃し、倒木や枯木が目立つようになりました。当会は、鎮守の杜、天然記念物の社叢を保全し、次世代に繋げるために平成 28 年に設立されました。阪神米穀様をはじめ、地域の方々や企業様に支えられながら、幼稚園児からご高齢者まで、できる範囲のことで活動しています。



ご神体の甕岩

力仕事や泥だらけになることもありますが、モットーは楽しく、一人ひとりが主役になるような会でありたいと思っています。鳥が好きな方には、野鳥図鑑をつくってもらい、昆虫が好きな方には、子供達の昆虫採集の案内をしてもらうなど、色々な形で森の魅力を発信しています。特に原木シイタケ栽培は好評です。廃材を有効利用するために始まったプロジェクトですが、今は幼稚園や地域の方にシイタケ狩りをしてもらうなど、多くの方に森の魅力を感じてもらっています。営利目的ではないのでお断りしていますが、嬉しいことに大手スーパー様や飲食店様から、是非このシイタケを取り扱わせてほしいというお声も頂きました。これからも森林ボランティア活動に興味ってもらえるような入り口を多くつくり、将来は子供が会長を務めているような、そんな面白い会にしていきたいと思っています。



会員の皆様

おおいち さと 太市の郷（姫路市）

太市地区は県内屈指のタケノコ収穫地。しかし耕作を取り止めた、放任竹林が広がっています。私たちは管理放棄される竹藪や森林が醸す景観貧化を憂い、郷里の美しい里山里地を回復させる修景に取り組むボランティアグループとして、2009年2月に発足しました。

現在の主な活動地は JR 姫新線・太市駅から東方側へ 800 程の軌道傍ら丘陵地で雑林エリア。一帯の荒ぶ情景は、地域民の心情を萎えさせます。また、山裾を縫うように通過する鉄道の車窓から乗客は否が応でも目に留まる、疲弊した郷の様態など見せたくはないものでした。かつての風情ある竹林景観の創出を通して、「穏やかで自然が豊



ハチク開花(120年周期で?)調査

かな、ふるさとに誇りが持てる環境を、次代を担う子どもたちへ引継ぎたい!」と思う。

活動場所では、タケノコ畑として生産が持続できるよう循環生育させていくモウソウチク（孟宗竹）林。農用竹材を目的にする適正管理の必要なハチク（淡竹）林。クヌギ・コナラ・ヤマザクラ・マツなど雑木林にカキ・クリの果樹木が茂り立つ多様な森林空間。下草刈り、枝打ち、除伐の保全作業や巣箱架けを行い、小学児童やこども園児を受入れた自然体験学習サポートもしています。

2017年以降から、ハチク林で一斉開花と枯死（120年周期の現象か?）が発生。これまでに経験の無い時勢で、枯れた後の更新は如何なるのか。この事柄に関心を抱いた植生研究者たちを交え、調査検証の活動を継続中です。



巣箱架け作業

里山倶楽部『廻』(KAI)(豊岡市)

森林ボランティア活動をしていた移住者が、森林が整備されていないことによる災害の不安、また熊の出没によりケガをした人も出て生活の不安を感じ、見通しの良い地域づくりが必要と地域の人に声をかけ2016年4月に結成しました。

森林は市域の約8割を占めていますが、私達の活動している地域は高齢化率が高く、16行政区のうち、準限界集落は11区あります。

現在、活動地は2ヶ所で月に2~8回、森林や竹林の整備をしています。

鉄砲竹や笹が伸び放題で、熊・鹿・猪・猿の格好の隠れ場所になっている放置人工林や生活道路に面し、竹林が密集している区域から順次整備を行い、見通し・景観の良い森づくりをしています。春には住民や会員の家族で筍堀り等も楽しんでいます。



竹林整備(道路際の作業)



第一回林況調査時の集合写真

会員は12名で9名は初心者、半数が65才以上です。定期的な活動で筋肉強化になり、「スポーツ感覚」と言う者もありますが、安全第一に女性や高齢者も無理せず出来る方法で楽しみながら活動しています。応援して下さい。住民からの喜びの声を励みに、森の活動で人も元気になる事を伝えたいと思っています。できたら車椅子でも入れる公園を目指していけたらと整備しています。

事務局は古民家内にあり、森林活動の関連書籍・資料は自由にご覧戴けます。(ご休憩も歓迎です)

皆さま、どうぞ但馬の森に遊びにいらして下さい。

コロナ禍の中での活動

各団体ともコロナ禍の中での活動に苦慮されていると思いますが、その中で工夫しながら活動されている団体の事例を紹介します

ナシオン創造の森育成会(西宮市)

開けた環境の中にある森林整備もコロナウイルス感染に気をつけながら、感染の正しい知識を学び、知恵を出し工夫しながら活動に努めていくことを求められました。

4月初旬から6月末までコロナウイルス感染症対策で定例活動は中止にしました。しかし、草木は伸び、人の出入りが少なくなった園路は猪に荒らされています。このような中で園路整備は2・3人で行い、外来種のおオキンケイギクの抜き取り作業はマスク着用、個々の間隔を空けて有志だけで行いました。



オオキンケイギク抜き取り



園路整備

7月以降からは定例活動を再開しましたが、作業現場までの山道を上る、木を伐る作業はマスクをしていると息苦しく着用は各自自由にし、互いの間隔を空けるようにしています。

その他に春のイベントは参加者同士の密を避けるために規模を小さくして開催。環境学習は9月に小学校3年生3クラス69名の自然体験学習昆虫採集を行いました。例年だと1日で終わるのを1日1クラスずつ行い保護者もマスクを着けて参加していただきました。

自然はコロナ禍とは関係なく育まれる中で対策をしながらの活動継続は必要でした。そして不便は感じつつも人が自然と関わることでその自然が保たれることを、人と自然の関わり方の大切さを改めて教えられました。油断せず、これからもその時々に応じた対応をしながら活動に努めて参ります。

新会員紹介

小谷城跡保存会（加西市）

小谷城は室町中期の応永年間（1394～1428年）に播磨の守護大名赤松義則の養子上原民部大輔祐政によって築城されましたが、1441年の嘉吉の乱で落城。現在は本丸跡、西小丸跡、堀、土塁跡等が残るのみですが標高218mの山頂に山城があったことから「城山」と呼ばれ、半世紀前の昭和40年代頃迄はふるさとの森として親しまれていました。ところが時代の変化と共に同森に人が入らなくなり、草木が生え放題となって、地元北条小学校の耐寒訓練「城山縦走」も行われなくなっていました。

「先人の残した財産がこのままでは忘れられてしまう」との危機感から平成23年1月ふるさとの森を甦らせるため、市内住民有志で構成するボランティア団体「小谷城跡保存会（約30名）」が発足しました。

NPO法人の協力も得て雑木の伐採や草木を刈り取り遊歩道を拡張し、また、山頂で食事や雨宿りができるようにと発足2年後の平成25年には屋根付き（孟宗竹使用）展望台を建てたところ市外からも登山者が見えるようになりました。

荒れ放題であった森の整備を進めて約10年、文字通りふれあいの森として甦り「登山者にやさしく、美しく」をモットーに1回/月・作業（平均10～13名参加）を基本として維持管理に努めています。

同森は市内外の登山者の健康づくりの場として、さらに保存会員が作業を通じて自身の健康づくりに役立てています。また、前述の地元小学校児童、こども園園児の自然体験学習の場にもなっており、春・秋には山頂から黄色い声がこだまします。

なお、保存会員の高齢化が進み若手の加入、頂上にトイレ設置が大きな課題です。本団体協議会に加入させていただき、種々情報交換等により課題解決に繋げていきたいと思っています。

展望台からは明石大橋が一望でき、空気が美味しい播磨の絶景小谷城跡へ是非お越しください。



小谷城本丸跡石碑と展望台

ヤッホの森湿地を育む会（たつの市）

たつの市揖保川町黍田にある「ヤッホの森」には、江戸時代に水田（隠し田）として利用されていましたが、現在では貴重な植物や生き物が棲んでいる湿地へと変遷してきた場所があります。しかし、長い間放置されていたため、ササ、ススキ、広葉樹などが侵入して陸地化に向かい始めたため、以前に生育していた貴重な動植物の姿が次々と消えていきました。

「今の状態のままでは、いつの日かすべてが失われてしまうのではないか」と案じ、そして、「湿地を何とかしたい」と願う人々が集まり、平成28年9月に「ヤッホの森湿地を育む会」を立ち上げました。活動の内容は、湿地の保全と維持のため ①湿地内の不要な植物の除去、②湿地および周辺の動植物の調査、などです。

活動を始めてほぼ4年ですが、湿地やその周辺の不要な草木などを除去したところ、サギソウ、トキソウ、モウセンゴケ、カキラン、サワギキョウやモリアオガエルなど貴重な動植物が再びみられるようになってきました。



ヤッホの森に咲くサギソウ

今後、湿地の貴重動植物の保全と生物多様性を維持しながら、多くの方々の環境学習の場として活用されるようにしていきたいと考えています。

湿地の保全と維持は多くの方々の参加が得られてこそ実行できるものだと思います。この湿地が地域の「たからもの」としてあり続けるために、一緒に活動していただける方をお待ちしています。

KOBE 学生地域貢献スクラム

広報担当委員 高田 誠一郎（ほくら〜ととや森の世話人倶楽部 事務局長）

2020 年はコロナの年となりましたが、神戸市が 8 月に標記の様な地域活動を通じた学生支援活動事業をスタートさせております。事業目的は、①新型コロナウイルスの影響に伴い家計が急激に悪化する学生への経済的支援 ②人口減少、高齢化による社会課題や地域課題の解決支援 ③学生が神戸の地域や社会課題を知ってもらいきっかけづくり、地域と学生との繋がりづくり との事で、具体的には今年度留学生含めて市内の大学等に在籍又は市外の大学等に在籍する市内に居住の学生が市内で活動する N P O 法人、ボランティア団体等の非営利団体等の公益的な団体の活動に参加したら、神戸市が 1 回当たり約 1 万円の給付金を支払うと云う判り易いものです。

9 月 1 日（火）開催した第 2 回委員会で、我々の課題の一つである若い活動参加者の育成確保の為に積極的に活用してみようとなり、神戸市内で活動する 5 団体（「ひょうご森の倶楽部」「ブナを植える会」「ほくら〜ととや森の世話人倶楽部」「山田の里グリーンクラブ」「フォレスター松寿」）が当該プロジェクト団体として申請し認可され今日に至っております。11 月末時点で、5 団体で延べ 12 回 42 名の学生の参加がありましたので、受入れ団体からの簡単な感想をご参考までに記載させていただきます。

- ・それぞれ真面目に活動に参加してくれた。
- ・若い学生の明るくて元気な姿を見ると、こちらやる気が湧いてきました。
- ・無断欠席もあり、先方事務局との連絡整合が必要と思う。

何れにせよ、学生達が活動に参加して何を感じたのかは、受け入れ側の我々の対応如何ではなかろうかと思った次第です。

兵庫県にも各部署に青少年向けの諸々の施策がある様ですが、「県民総参加の森づくり」の為に当事者が使い易い同様な事業を始めたいものとの思いです。



倶楽部活動地のヨメナの前での笑顔



「緑の募金」にご協力ください！

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

森と緑は、二酸化炭素の吸収や水源のかん養などの働きを通じ、私たちの暮らしに欠かせない恵みをもたらしてくれています。このかけがえのない森と緑を守り育てていくために、「緑の募金」として家庭募金、学校募金、職場募金、街頭募金、団体募金、企業募金を県下各地で行っています。

<https://hyogo-green.net/>

なお、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会からの令和 2 年 1 月～令和 2 年 12 月の募金額は¥109,520-でした。

郵便振込

手数料が不要になる専用の払込取扱票用紙をお送りしますので、(公社)兵庫県緑化推進協会へ直接お問い合わせください。

銀行振込

口座：三井住友銀行兵庫県庁出張所
普通 3198438 (振込手数料が必要)
名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会
問合せ：TEL 078(341)4070 FAX 078(341)4071



事務局から会員へのお知らせ

メールで助成金やセミナーなどの情報提供をしています。

未登録の団体で、希望される場合は以下のメールアドレスまでご連絡ください。

(担当：豊かな森づくり課 樋口)

yutakanamorizukuri@pref.hyogo.lg.jp

事務局 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号
兵庫県農政環境部農林水産局豊かな森づくり課内

TEL 078-362-3613

FAX 078-362-3954

会報に関する問い合わせ：桑田 結

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 3 丁目 5 番 29-106

Tel/Fax 078-851-0291

携帯 090-3166-9785

e-mail bunawouerukai.kobe@gmail.com

